

2023 年度 廃棄物資源循環学会 春の研究討論会参加案内

令和5年度「春の研究討論会」は、2023年5月25日（木）、26日（金）川崎市産業振興会館で開催します。現在、廃棄物を取り巻く環境が大きく変化する流れの中で、対象とする分野も広がり、それに伴い廃棄物資源循環学会に設置されている研究部会数も14まで増え、部会活動が活発化しています。本学会では、研究部会活動の促進および支援の観点から、部会活動の発表の場を提供することを目的として「春の研究討論会」を開催しています。それぞれの分野における最新の話題や興味深い話題に対して討論を行うことにより、より一層社会と連携し循環型社会の形成や廃棄物問題の解決を目指していきます。

日常生活から社会の生産活動に至る廃棄物の諸問題や資源循環に纏わるテーマについて、研究機関、市民、企業、行政の様々な立場からの研究討論を通じて理解を深めたいと思います。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

なお、最新情報は学会ホームページ (<https://www.jsmcwm.or.jp>) にてご確認ください。

- 主催：一般社団法人 廃棄物資源循環学会
- 開催日：2023年5月25日（木）13:00～17:30
2023年5月26日（金）10:00～11:30
- 開催場所：川崎市産業振興会館 1階ホール会場及び9階セミナー室
住所 〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20
電話 044-548-4111
最寄駅 JR川崎駅西口 徒歩8分、京急川崎駅 徒歩7分



- 定員
ホール会場は358名、セミナー室会場は90名（事前申込制）
*各セッションに関して、同時にZoom配信を行います。

【会場参加者へのお願い】

・発熱・倦怠感・胸部不快、咳・くしゃみ・鼻水等の症状がある場合は来場せずオンラインで参加

- 参加申込方法
学会ホームページ (<http://www.jsmcwm.or.jp/>) からお申込みください。

- 参加費：無料

● プログラム：

5月25日(木)

会場	午後(13:00～15:00)	午後(15:30～17:30)
ホール (1階) 358名	セミナーA【Zoom配信】 リサイクルシステム・技術研究部会 プラスチック固形化燃料(RPF)の現状と今後の展望	セミナーC【Zoom配信】 産廃研究部会・廃棄物計画研究部会 官民連携による一般廃棄物の適正処理
セミナー室 (9階) 90名	セミナーB【Zoom配信】 環境学習施設研究部会 環境学習施設のつくり方 ー地域に多面的価値を創出する施設整備についてー	セミナーD【Zoom配信】 埋立処理処分研究部会 最終処分場の廃止に向けた埋立地ガスの測定と評価について

5月26日(金)

会場	午前(10:00～11:30)	午後(13:00～16:30)
ホール (1階) 358名	セミナーE【Zoom配信】 消費者市民研究部会、編集委員会「循環とくらし」編集会議 使い捨て紙おむつ ー使う一歩前と使ったあとを考える	学会賞授賞式 総会 受賞講演
セミナー室 (9階) 90名		

セミナーA プラスチック固形化燃料（RPF）の現状と将来展望

（リサイクルシステム・技術研究部会）

概要：

廃プラスチックにはPVC等の腐食成分が多く含まれるため、高効率な発電に必要な高いエクセルギーが得られる高温燃焼は困難である。RPFは安価に製造可能で予熱や乾燥用エネルギー源として広く利用され、二酸化炭素の排出削減効果も大きく生産量は最近急速に増加している。一方、本来マテリアルリサイクルやケミカルリサイクルに利用されるべき、高品質な廃プラスチックも多く使用されている。

本セッションでは、廃プラスチックの循環利用を促進させるための施策と、RPFなどのエネルギー利用の現状と今後の展開を検討する。

プログラム：

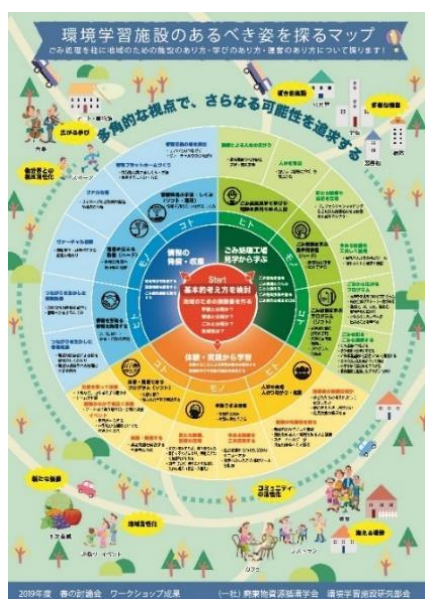
1. 趣旨説明 杉山智（株式会社ヒラテ技研）
2. 講演
 - 2-1 動静脈連携によるリサイクル困難な廃棄物の高効率熱利用とカーボンリサイクル
国立研究開発法人国立環境研究所 藤井 実氏
 - 2-2 RPF生産の現状と課題
株式会社オガワエコノス 横山 友和氏
 - 2-3 焼却炉でのRPF使用に至る経緯と操業経験
中越パルプ工業株式会社 佐川 幸治氏
3. パネルディスカッション
パネリスト 講師 3名
ファシリテーター 加茂 徹氏（早稲田大学）

セミナーB 環境学習施設のつくり方 —地域に多面的価値を創出する施設整備について—

（環境学習施設研究部会）

本研究部会は、環境省が推進する「地域に多面的価値を創出する廃棄物処理施設整備の促進」に歩調をあわせ、「環境学習施設のつくり方 —地域に多面的価値を創出する施設整備について—」をテーマに、本セッションを開催します。基調講演として、

ハンドブック制作の進捗報告とともに、施設運営に携わる方々からそのノウハウに関わる話題を提供し、参加者のみなさまとともに討論したいと考えています。



第1部 基調講演（約30分） ～ 質疑応答（約20分）

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課
北垣 芳彦 係長

第2部 研究部会セッション

- ・全国施設紹介（公募）のご案内（約10分）
花嶋 温子（本研究部会・代表）
- ・ハンドブックの進捗報告・連載記事について（約10分）
山口 茂子 氏（川崎重工業株式会社）
- ・施設の課題提議「人材確保・育成」（約20分）
長内 隆久 氏（豊田市環境学習施設エコット）
東 飛郎 氏（札幌市リサイクルプラザ
／NPO法人環境り・ふれんず）
- ・2023年度事業案内、及び研修セミナーの提案等（約10分）
事務局

セミナーC 官民連携による一般廃棄物の適正処理

(産廃研究部会・廃棄物計画研究部会)

人口減少や財政難など多様な課題を抱える市町村にとって、一般廃棄物の適正処理を確保することが困難な状況になりつつあります。現在、処理・リサイクル施設の広域化や集約化が進められている中で、民間事業者との連携事例も増えてきました。市町村にとっては一般廃棄物の処理委託することで施設整備にかかる経費を節減でき、一方、民間事業者にとっては収入の確保に繋がり安定した一廃・産廃の処理・リサイクル事業を継続することができます。地域内の廃棄物を一廃・産廃問わず、官民連携によって処理・リサイクルすることが地域循環共生圏を形成する上でも重要なファクターになります。

そこで本研究討論会では、民間事業者による一般廃棄物の適正処理に関する事例を紹介すると共に、官民連携に至った経緯やその実現までのハードル、実際に処理が開始されてからの課題について情報共有したいと思います。ご参加される皆様の気づきや学びになれば幸いです。

プログラム (予定) (敬称略) 司会：稲葉陸太 (国立環境研究所)

- 1) 開会挨拶 廃棄物計画研究部会長 石井一英 (北海道大学)
- 2) 官民連携による地域貢献と一般廃棄物処理の実態
 - ・株式会社富士クリーン 町川 和倫
 - ・三重中央開発株式会社 田村 隆徳
 - ・斑鳩町住民生活部環境対策課 東浦 寿也
- 3) パネルディスカッション
コーディネーター：石井一英 (北海道大学)
パネラー：上記講演者3名+株式会社丸幸 渡邊 俊介
- 4) 閉会挨拶 産廃研究部会長 袖野 玲子 (芝浦工業大学)

セミナーD 最終処分場の廃止に向けた埋立地ガスの測定と評価について

(埋立処理処分研究部会)

埋立処理処分研究部会より2002年3月に成果として公表した「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」(当時代表：田中信壽)は、1998年6月に施行された「最終処分場廃止基準」について、考え方、調査測定、評価判断の考察提案を行ったものであり、廃止基準適合を判断する際に参考となる資料として活用されている。

本部会では、埋立地にかかわる実務に利用可能な数理モデルを提案することを目的として、数値埋立工学のワーキンググループを立ち上げ、2022年度は4回のWGミーティングをオンラインで実施して、最終処分場の維持管理と廃止基準に関連して、「埋立物・構造・管理」「測定法」「判断基準」「跡地利用」等のキーワードを中心に意見交換を行い、分担を決めて、『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』の改訂の作業を、現在進めている。

本セミナーでは、最終処分場の廃止基準に関わる測定法に焦点をあてて、廃止基準に関わる調査項目を最終処分場どのように測定すべきかについて、現場での測定例を紹介しながら、課題と方向性について参加者と議論を行う。その結果を『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』の改訂の作業に反映させることを目指す。

1. 廃棄物最終処分場の廃止基準に関わる調査項目の測定の概要
2. 調査項目の現場での測定における課題 (一般廃棄物処分場)
3. 調査項目の現場での測定における課題 (産業廃棄物処分場)
4. 『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』の改訂において考慮すべき事項 (討議)

セミナーE 使い捨ておむつ - 使う一歩前と使ったあとを考える

(消費者市民研究部会・「循環とくらし」編集会議)

国内の使い捨ておむつの使用量は、少子高齢化の進展により、乳幼児用については縮小傾向、大人用は拡大傾向、全体としては拡大傾向にあります。この中で使い捨ておむつの使用は、衛生面、労働環境面、利便性等において回避することは難しいと考えられています。

その結果、使用済み使い捨ておむつの発生量は、2030年には245～261万 tonとなり、一般廃棄物排出量の6.6～7.1% (湿ベース) に達するとする推計もあります。一般廃棄物に占めるこの割合は、例えば自治体の可燃ごみに含まれるプラスチック類の比率に近く、無視できる量ではありません。使用済み使い捨ておむつの増加、そしてこの焼却処理は、廃棄物処理事業においてさまざまな課題を顕在化させる可能性を持つと考えられています。プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が公布されプラスチック類との関わり方に関する議論が交わされる今日、ある種の使い捨てプラスチックとも言える使い捨ておむつについても資源循環面からの議論を行うことが必要だと考えられます。

こうした中、学会発行の市民向け冊子である『循環とくらし』編集会議では、消費者市民研究部会との協働のもと、昨年来、「使い捨ておむつ」について検討し、廃棄物資源循環学会誌 第33巻 第4号 特集「使い捨ておむつ」を企画し、現在準備中の『循環とくらし』第11号においても「使い捨ておむつ」を特集しています。また消費者市民研究部会も昨年度の市民フォーラムおよび市民展示にて、この問題について情報発信を行ってきました。

そこで本企画では、これらの特集の執筆者の中から3名の方をお願いして、使い捨ておむつの処理の実態と、使用抑制や資源循環の取組みについて話題提供を行い、来場者の皆さんとともにこの問題について考えていきたいと思っております。

プログラム (予定) (敬称略)

司会：渡辺浩平 (帝京大学)

1) 開会あいさつ：消費者市民研究部会長 岡山朋子 (大正大学)

2) 話題提供：

1. 使い捨ておむつの焼却の実態と今後：ごみの中の使い捨ておむつを知る

京都大学 大下和徹

2. 使い捨ておむつ一使う前と使ったあとを考えるー

群馬大学 内田陽子

3. 「私たちの使用済み紙おむつの資源化新システム」ーあなたに人生の華を贈りたいー

NPO法人廃棄物管理アドバイザーネットワーク福岡 松藤康司

3) 質疑・パネルディスカッション

4) 閉会あいさつ：『循環とくらし』編集長 渡辺浩平 (帝京大学)